

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677700116		
法人名	アール・エイチカンパニー有限会社		
事業所名	高齢者グループホームゆうとみい		
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本 2547-1		
自己評価作成日	平成22年8月20日	評価結果市町村受理日	平成22年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagoshima-kaigonet.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号		
訪問調査日	平成22年9月17日	評価結果確定日	平成22年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の都合で入所出来ない方、或いは入所されたことで、家庭に残され淋しくて困っている方へのケアに力を入れている。 ・遠く離れた家族への連絡を強化し、心のケアに重きを置き、事業所の認知症ケア専門士が時間を作りボランティアで訪問している。 ・この活動により、入所出来ない家族から電話での困り事、相談が増え、それに答えられるよう日々、努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、田園風景が広がる緑豊かな地に建てられている。協力医療機関には認知症専門医がおり、ホームとの連携がよく図られている。年々、地域や自治会との関係が密になってきており、地域での役割や認知症ケアについての理解が得られてきている。夜勤者の他に副施設長が常駐しており、緊急時に備えた手厚い体制がとられている。また周辺地域とは、緊急時や災害時の協力体制の確保や、周辺地域が被災した場合、避難場所としてのホーム開放等、相互に協力することについての話し合いが運営推進会議の中で行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。(グループホーム ゆうとみいーゆう)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677700116		
法人名	アール・エイチカンパニー有限会社		
事業所名	高齢者グループホームゆうとみい		
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本 2547-1		
自己評価作成日	平成22年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagoshima-kaigonet.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成22年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の都合で入所出来ない方、或いは入所されたことで、家庭に残され淋しくて困っている方へのケアに力を入れている。 ・遠く離れた家族への連絡を強化し、心のケアに重きを置き、事業所の認知症ケア専門士が時間を作りボランティアで訪問している。 ・この活動により、入所出来ない家族から電話での困り事、相談が増え、それに答えられるよう日々、努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>（この欄は外部評価機関の記入欄です。評価結果を記載してください。）</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。(グループホーム ゆうとみいーみい)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

高齢者グループホーム ゆうとみい(ゆう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は充実してきている。ケアの実践にも多いに繋がってきている。	「地域の中で残された力を生かし自分らしくゆっくりそしてのんびりと不安のない生活がおくれる事」を目標とする理念を掲げ、ホームが自分の家であったり、家と感じられるケアを目指して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まり会にも管理者が参加していて顔馴染みも増え近所の方の利用もあるので、訪問も多くスタッフとの日常的な会話も多い。	自治会に加入し、ホームの職員が幹事や会計の役を担っている。ホームで行われる夏祭りに近所の方々が多数参加される。また、地域のスポーツ大会や老人会へ積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に一人暮らしの方や遠方にいらっしゃる方のお宅を定期的に訪問し近況を伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での出席者からの意見が活発に聞かれるようになってきたので相手の意見、自分たちの疑問など話し合えるのでサービス向上に役立っている。	3ヶ月に1回のペースで運営推進会議が開催されている。災害時の対応策や構成メンバーの検討など、お互いに前向きな意見交換が行われている。	行政担当者の参加を促しながら、概ね2ヶ月に1回のサイクルで開催されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とも顔なじみにもなりケアサービスの取り組みを理解してもらっている。協力的な部分が多々ある。	必要な相談事がある際には、随時電話での相談を行ったり、役所に出向くなどして担当者との協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者による日常的な訪問や運営推進会議を利用したホームの実情把握など、今後さらに連携して取り組むことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については話し合いを常に行いながら疑問の部分はそのつど考えながら身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束についての勉強会を行い、玄関の施錠を含め、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で疑問に思える事など常に話し合いながら虐待を見逃さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い学びながら理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には利用者及び家族に十分な説明を行い確認をしてサインや捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に面会時に利用者の現状報告を行うがその中で意見や要望が聞けるのでそれらを改善していくように努めている。	入居者及びご家族との関係は良好で、意見や要望は面会の際に口頭で受け、随時対応している。	苦情に対する記録は整備されているが、ご家族からの要望や意見、提案についての記録がやや不十分であり、今後の改善が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者がケアマネージャーとして現場にいる為職員の意見や提案を聞く機会が多く反映されている。	介護支援専門員が現場職員と施設長との間に入り、お互いの意見が反映されやすいように努めている。スタッフから管理者及び施設長へ直接意見が言える関係ができており、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し職員個々の努力や実績を給与の反映につなげるよう代表者との伝達 相談を密に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修を出来る限り受けってもらう事でレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流の機会があったが主旨の違い感じられサービスの質の向上には難しいと思われた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化で不安が生じるので出来る限り本人と寄り添い傾聴 受容しながら安心できる環境作りに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを受け止め希望 要望に添えるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」してほしい希望 要望など本人の状態をしっかり受け止め今出来るサービス支援をしていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を尊重しながら喜怒哀楽を共にし安心して生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族とのコミュニケーションを取りながら家族と一緒に本人を支えていく意識を持って支援していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の喜ばれることに関しては途切れる事のないように面会なり電話などをお願いしている。	ご家族からの情報や、生活歴及び出身地等を考慮した入居者との日常会話及びケアを通して、本人が大切にしてきた関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格を把握し孤立することがないように利用者同士交流が自由できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も時々自宅訪問をしたり入院された時も面会に出向くなどして本人 家族との関係は保っている。 家族も時々施設に来られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人を尊重し本人本位の暮らしができるように支援している。	認知症の症状があっても、伝えたい事や思いがあることを十分理解し、入居者それぞれに応じた聞き取り方や意向の把握を行うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの暮らし方家族 ケアマネージャーからの情報をしっかり把握した上で自宅での本人の生活により近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に注意しながらできる能力を生かし本人のペースで生活できるよう支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の観察を怠らないようにして気づきに関してその都度話あったり、ケア会議で検討し本人の現状に即した介護計画を立てケアを行っている。	入居者の状況に関して職員から情報収集を行いながら、定例のケア会議や随時開催の検討会において、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画に基づいたケアを実践すべく、モニタリングや評価、計画の見直しといった一連の流れが、職員にとってわかりやすいような記録形式や管理方法の検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者から夜勤者へ申し送りをしっかり行い朝は全体朝礼で個々の状態を把握し日々のケアを行っている。熱のある人は熱計表 排便記録表など必要な情報が全職員に伝わるようにして日々ケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて入所時のお迎えやひとり暮らしで家族が遠方にいる方など家族の了解のもと自宅まで衣類を取りに行くなどのサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方や近隣の方々の出入りも多くなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は密に取れている。家族の信頼も得られていると思う。	入居者及びご家族が希望するかかりつけ医を利用できるように支援している。協力医療機関の医師は認知症専門医であり、定期的に訪問診療も実施されている。他科受診の際は通院介助を行っており、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師と常に相談しながら利用者の健康管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会を密に行い、状態把握をしながら入院中も顔馴染みのままにいられるように努め病院関係者との連携にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のありかたについては常に家族と相談し、かかりつけ医と話し合い本人の苦痛が少しでも和らぐように全員で取組み支援している。	看取り介護に関する指針を作成している。かかりつけ医を交え、ご家族等との確認を行いながら、重度化や終末期におけるケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新入職員も居たりするのですべての職員が対応できるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	すべての出入り口にスロープをつけ段差をなくし災害時の避難がスムーズにできるようにしてあり地域の人との協力体制も築いている。	年2回(夜間想定)の避難訓練を、消防署立会いのもとで実施していることに加えて、2ヶ月に1回の自主訓練も行っている。スプリンクラーや自動通報装置が設置され、近隣住民との協力体制も築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報 プライバシーの保護には特に注意している。言葉かけや対応の仕方についてはその度注意し改善するようにしている。	入居者の名前の呼び方や言葉かけの方法など、一人ひとりを尊重した対応に努めている。個人ファイル等の記録類は、事務室において適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の性格を理解し寄り添ってゆっくり会話しながら本人の思いや希望に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に個々のペースに合わせて起床 食事などの準備をするように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪をしたり着たい服を一緒に準備して着替えをしたりするように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきをしてもらったり、ランチョンマットや箸を準備してもらったり、食後の食器を寄せてもらったり出来る事をしてもらっている。	材料の準備や味の確認、食器の片付け等、入居者個々の力に応じて職員と一緒に頑張ってもらえるように働きかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量 水分の量は常に把握できるように記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自に合った口腔ケアをしている。拒否の強い人はトイレ誘導時に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツやオムツは出来るだけ使用せず布パンツと尿とりで誘導を行うようにしている。	排泄パターンを把握し、日中は布パンツに変えられるケアを実施している。オムツやポータブルトイレはなるべく夜間のみ使用するなど、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲む人がいたり ヨーグルトであったりお茶やジュース等で目先を変えながら水分をとってもらうなど個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全員が同じ日の入浴と決めず体調 機嫌などを見ながら個々に応じて入浴を行っている。	回数や時間の指定は特にはないが、少なくとも1日おきには入浴できるようにチェックし、入居者それぞれに応じた声かけや介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り一人ひとりの生活習慣に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現場に利用者全員の薬の説明書を置き確認できるようにしてあり症状の変化は注意深く観察するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルや各自の洗濯物など無理のない程度のお手伝いをしてもらっている。気分転換にはドライブに出かけたり 買い物の時に一人二人連れて出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の都合に合わせて外泊されたりしている。 スタッフとお墓参りに行くこともある。	ホーム周辺の草取りや、薬局、スーパーへの買い物、病院受診、自宅への外出など、入居者の希望に添って外出できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で理解できる人は必要な物 買いたいもの等 都合をつけ連れて行く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたいときにかけられるようにしてある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールのテーブルの座席は一応決めではあるが会話とかさねたりする場合とかそのままそこで食べていただいたりして自由に楽しめるようにしてある。	季節ごとに飾り付けを変えたり、花を飾るなどして季節感を味わえるように工夫している。廊下やリビングには椅子やソファが多めに設置され、温度や湿度も適切に管理されている。入居者は明るい雰囲気の中で、自由に好きな場所で居心地よく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外はほとんどソファでそれぞれの自分の居場所が決まっているようなので思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い馴れた物 好きな物を持ってきてもらうようお願いしている。	位牌やご家族の写真が持ち込まれたり、ベッドや畳、マットレス等、入居者の心身の状況に合わせた環境づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることが生かせるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

高齢者グループホーム ゆうとみい(みい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は確実に実践に繋がっていると思っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員が利用者の仲間入りをされた事で地域の方々の訪問が増え施設に笑い声も増えた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の中で認知症の高齢者だけの生活に不安を抱かれている家庭の訪問をして遠方家族に近況報告の支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も数を重ねる度に内容が濃くなってきている、話し合いの中から重要な意見をいただきサービス向上に役立っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新しい担当職員になったことから徐々に協力関係が築かれてきている、グループホームの活動にも興味を持ち自分の方から話しかけられる事が増えてきた、これを機会に町をあげて福祉に興味を持っていただきたい		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とはどのような事を言うのか、細かな内容の施設研修を行い全ての職員が理解し実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設内での少しの虐待でも見過ごされる事のないよう注意を払い職員どうし互いに防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修に努め理解を深め必要であればそれらを活用できるよう支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については十分な説明をし利用者及び家族に不安のないよう理解・納得のいくよう案内している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族との連絡を密にして自由な意見を言っていたき運営につなげるよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	助成金の事等も全ての職員にガラス張りで説明し意見の言える職場作りを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員達が向上心を持って働けるように必要な免許取得費の援助や独自の給与水準を設け生活にやりがいを持てるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	田舎だからと言われることのないよう職員のケアの向上には努力している、社内研修・外部研修を取り入れ各自のケアに役立つよう工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長(ケアマネ兼務)は全国レベルで認知症に関するケアの向上の為に研修を受講し、当ホームの利用者に職員を通して良きケアを支援出来る様努力している、町内の同業者との交流はまだ顔合わせ程度である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初不安が起きないように本人に寄り添い何を望まれているのか多くの時間を費やし引き出し施設の中での孤立を防いでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当時多くの家族が利用者と生活をする上で多くの困った事を訴えられる、入所された事で正常の生活が送れるよう関係づくりに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する時今何を援助すべきかを考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩とし多くの事を学ぶ事がある、一緒に生活をするということは一方的にケアする立場では成り立たないお互いが信頼関係を築きながら共に支えあえるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所当時は面会が少ないが生活の事及び体調面の連絡を増やす事により家族の面会が増え職員と家族が共に支える関係でいられるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外のお友達・ご近所の方の訪問をお願いし利用者にとって淋しくならない生活を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	田舎の為か町内の顔見知りが多く入居されているので他のユニットからも遊びにこられにぎやかである、職員は孤立のない生活を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の旅立ちで契約が終了しても家族の訪問・電話が耐えないまた時には入居者紹介もある利用者は関係なく遊びがてら収穫ものをいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人の思いを受け止めていきたいが困難な場合が多く、本人の思いが何処にあるのかの把握に努めながら出来る限り本人の意向に添えるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	強い認知症の方の生活歴や過去の暮らしは把握出来づらい事もあり、近親者から出来る限りの情報を集め馴染みの暮らしに近づける努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方はそれぞれである、最近は一各町のご近所さんも増え話の花が咲いている、出来る事したい事の把握に努め心地よい一日の提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どうすれば本人にとって過ごしやすいケアになるのか職員なりに意見交換をし、本人を含め家族にもわかりやすい介護計画を作成しチームとしての統一ケアを目指している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝礼での個別ケアの共有、日々の個別記録の記入等職員間で情報を共有しながら介護計画が生きたものになるよう支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご夫婦のお一人の入居により残された配偶者の淋しさや生活に異常な変化が起きないよう自宅訪問し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の方、或いは民生委員さん等の面会は自宅に居るような馴染みの生活を思わせ安心した暮らしの支援に繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が近くなので家族と話し合いながら職員が受診支援をしている、又かかりつけ医の診療科目以外は家族の応援を借りて適切な医療を受けられるようかかりつけ医の紹介状付きで受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は職場内看護職員や訪問看護師等に気づきの情報を伝え、適切な医療的受診が出来る様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、面会を増やし病院関係者との情報交換を密にし早期退院へ向けての努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化或いは終末期に向けた方針を家族等と話し合い出来る限りの支援を行い家族と一体で介護に当たっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員の応急手当・初期対応の訓練は定期的に行っていきたいが新人の職員はまだ当グループホームでの訓練は受けていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全ての災害を想定し職員が昼夜を問わず避難出来る様夜間の避難訓練を重ね、地域の方々にも参加していただき協力体制を強化している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護度の高い人が低い人にプライバシー侵害を起こされないよう言葉賭け等に注意しながら支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	空想の世界に浸る人・好きなCDにあわせて歌う人・手拍子で昔の唄を歌っている人達・一人で新聞をゆっくり読んでいる人・テレビを観ている人自分なりの時間を過ごされている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	早く起きてテーブルにつきお茶を待つ人・10時すぎ起きて食事する人・調子によってはお昼頃起きる人とさまざまでありその人なりの一日が過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつまでも女性であり・男性であることの自覚をもたれるような声掛け、日常のあるべき姿を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく利用者の好みに合った食材を使いながら準備し職員と共に楽しい語らいのひとときを過ごしていただいている、準備、片付けも出来る方だけ手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・水分摂取の把握を表にし、各個人の体調管理にあたっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の清潔に努めている、出来ない人はガーゼ棒(冷えた)を使い味覚感覚を失われないような工夫をしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ対応で入居された利用者も排泄のパターン把握によりトイレでの排泄が出来る様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防についてはスタッフ全員で努力している出きるだけ薬に頼らず牛乳・繊維質野菜などを多く取り入れ個人個人の管理に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のお好きな方、余りお好きでない方と様々だがなるべく楽しく入っていただくよう声掛けをまめにしている楽しい入浴タイムが出来るよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣を支援している(早く寝られる方・遅くまで起きている人・テレビを観ている人・電気をつけたまま眠る人)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり手渡しで飲んでいただいている職員も薬の目的について十分な知識と共に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分なりの生活習慣を支援しており新たな楽しみ・やりがいを探せるよう職員も一緒に努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域密着型になってから知り合いの利用者が増えたことにより近くのスーパーまでの買い物にもこぞって参加されるようになられている外に出るのに全ての利用者が体調が良いわけではなく小グループにての参加が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方がずいぶん減ってきているが出来る方には少し所持していただき買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新しい利用者に家族から手紙が来ると涙を流される事もしばしばである会話のできる方へも電話の支援をお願いしている、その場限りではあるがその時の思いを大事にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車イス・歩行器・など歩行が自由に出来る様空間整備に努めている、好きなところに座られたりその時々季節の花を眺められるような工夫をしている、温度調節にも注意しながら心地良い時間を過ごしていただけるよう考えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話し相手と自由に話せ自分の時間も確保出来るよう共用空間の使い勝手に充分注意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品々を持ち込んでいただき本人にとって居室が居心地の良い部屋であるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分から出来ること、解かることへの参加をしていただき、安全に出来るだけ自立した生活が送れるよう努めている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	現在三ヶ月に一度の割合で実施している運営推進会議を二ヶ月に一度、開催できないか。	二ヶ月に一度の運営推進会議の実施。	現在実施している会議内容の見直し検討。 ・参加者の枠を拡大し情報の共有化を図る ・議題のシンプル化	6ヶ月
2	26	介護計画に基づいたケアに対するモニタリング及び計画見直しに伴う記録不足。	定期的な介護計画に対するモニタリングの実施と記録の徹底。	介護計画の期間中でもモニタリングを増やし、短期間の中での変化も見逃さない、気づき・観察力の向上及び記録の徹底を図る。	6ヶ月
3	33	看取り介護について、全ての職員が立ち会っている訳ではない、全ての職員がチームとして関わることの大切さを共有できるための研修不足。	チームとしての看取り介護の実施。	当ホームの「看取り介護に関する指針」からチーム看取り介護の重要性を職員研修を通して、全職員が認識し自信を持って看取り介護を実践して行く。	12ヶ月
4	35	火災について(夜間想定)の避難訓練等は実施しているが、他の災害に対しての訓練が不足している。	全ての災害に対処できる体制作りの強化。	現行マニュアル「非常災害に関する具体的計画について」のバージョンアップを図る。 ・特に災害種別ごとの避難ルート、避難場所等を具体的に明記し、マニュアルに沿った訓練強化に努める。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。